

点滴・採血トレーナー 取扱説明書

- ・ 本製品は人体を元に創られており、細部まで正確に再現された男性の左腕モデルです。

- ・ 表皮は、特殊なポリ塩化ビニル製で触診を行うことができます。また、耐久性が高く何度も穿刺を行うことができます。セルフシーリングシステムを採用したラテックス製の静脈は、触診により確認することができます。

- ・ 麻酔科医がよく穿刺を行う部位として手の甲にある2本の背側中手静脈を再現しています。

- ・ 前腕部側面を上行する橈側皮静脈は、外傷治療の際に重要となる部位です。この静脈は、肘窩の外側で肘正中皮静脈と合流し、上腕二頭筋の外側を上行しています。

- ・ 尺側皮静脈は、手背静脈網の尺側から起こり肘窩の内側で肘正中皮静脈と合流しており、瀉血のトレーニングの際に穿刺を行う部位です。

使用方法

- ・モデルを手のひらを下に向けた状態で、アームレストの上にのせます。



- ・プラスチック製のボトルを取出し、ボトルのキャップを外して
擬似血液濃縮粉末を10g(ティースプーン約1杯分)入れます。



10g



擬似血液濃縮粉末

- ・ボトルの一番上の印まで水を入れ、キャップを閉めてよく振ります。

目印



- ・作業を行う前に、擬似血管に取付けてある白いクリップがロック状態であることを確認して下さい。

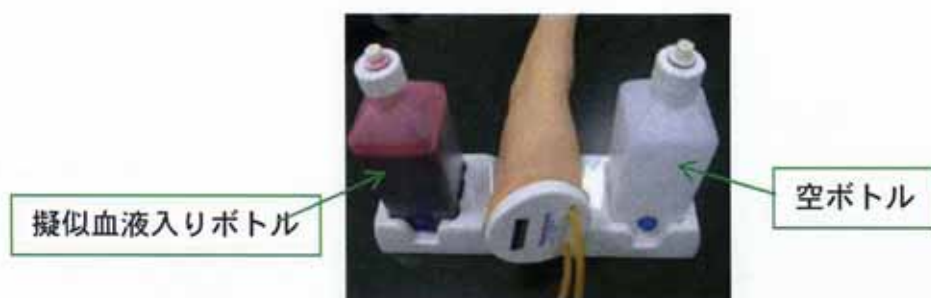


ロック解除状態



ロック状態

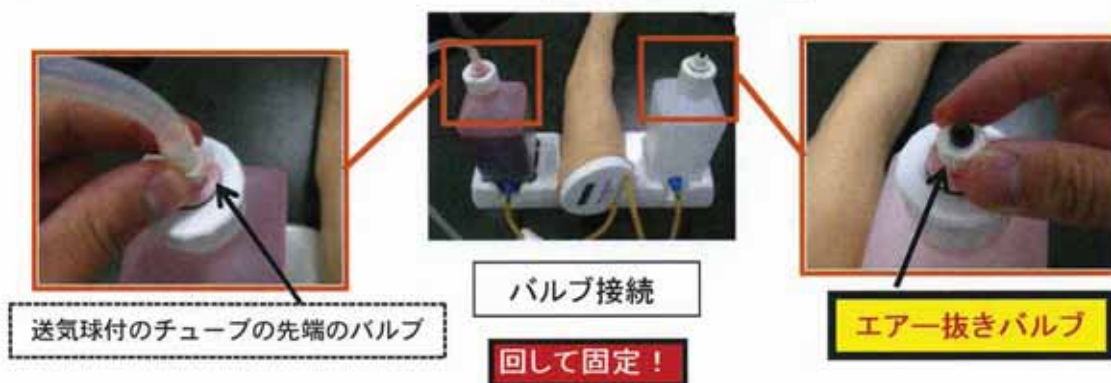
- ・二つのボトル(擬似血液を入りボトル、空ボトル)をアームレストのフォルダーにのせます。



- ・擬似血液を入れたボトルの後ろにある青いコネクタに擬似血管のコネクタを差込み、**回して固定します。**
- ・同じ要領で空のボトルともう1つの擬似血管のコネクタを接続します



- ・送気球付のチューブの先端のパルプを、擬似血液を入れたボトルに接続します。
- ・空の容器(血液を送られる側)には **エアー抜きバルブ** を接続します。



- ・ここで擬似血管のクリップのロックを解除します。



- ・ 擬似血液入りのボトルに接続されている送気球をゆっくりと2～3回押して、静脈内に擬似血液を充填します。
(空のボトルの方に血液が流れ出てくる程度が目安です)
- ・ 実習時は、定期的を送気を繰り返し行い、静脈内の血液を補充して下さい。



**送気の際、必要以上に
圧力をかけないで下さい！
事故・破損の原因になります**

- ・ ボトルが空になったら、送気球付のチューブを**キャップごと**外し、一方の血液が入ったボトルについてあるキャップと交換します。



キャップごと外す



キャップ交換

実習場所を移動する場合及び保管時

- ・白いクリップをロックして下さい →



- ・液漏れを防ぐために送気球付のバルブとエア抜キバルブをボトルから外し、それぞれ、付属の**白いプラグ**を取付け、**時計方向に回し固定**します。



バルブを取り外す



白いプラグを取り付ける

(移動時・保管用プラグ)

- ・それぞれのボトルの青いコネクタを反時計方向に回し、静脈を外して下さい。



コネクタを取り外す

注意事項

表皮及び静脈の劣化を防ぐため、実習には21ゲージ以下のカニューレ又は針を使用することをお勧めします。

*** 送気の際、圧力を必要以上にかけないで下さい(事故、破損の原因になります)**

※ 筋肉注射

表皮は蒸気を通さない素材でできていますので、三角筋に液体を注入しないで下さい。(穿刺は可能です)。

使用後の注意

排液

静脈内に擬似血液が残らないよう、数回送気して血液を一方のボトルに集めて下さい。

洗浄方法

本製品は中性洗剤で洗浄することが可能です。

表皮についた粘着テープの跡は、アルコール系溶剤で落とすことができます。

表皮にマーカーやボールペンのインクが付着しないよう注意して下さい。

表皮及び静脈の交換方法

1. 本体から表皮を剥がします。
2. 使用済みの静脈を取外し、廃棄します。
3. 静脈を本体の静脈溝にはめ込みます。
4. 潤滑スプレーを表皮の内側に十分塗布し、
表皮をこすり合わせるようにして揉みながら馴染ませます。
5. 本体の肩側を自分のお腹に向けて作業台の上にのせます。
本体の手首側から表皮に入れ、肩まで被せていきます。
6. 本体内の静脈と表皮の静脈の位置にずれがないよう微調整します。